

【清瀬市】校務DX計画

1 校務DXにおける清瀬市の現状について

令和5年3月「GIGAスクール構想の下での校務DXについて ～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」の通知を受け、清瀬市では、保護者連絡ツールや自動採点システムの導入、指導要録等公簿の原本電子化などに取り組み、学校内外のDX化の推進を図った。

その結果、令和6年11月に文部科学省が実施した調査『「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」に基づく自己点検のフォローアップ』の自己点検結果（速報値）では、学校向け調査においてR5年度379.8点（東京都全域平均422.8点）からR6年度398.9点（東京都全域平均434.5点）、学校設置者向け調査においてR5年度180点（東京都全域平均279点）からR6年度290点（東京都全域平均333.4点）となり、前年度よりもDX化を進めることができたと考えている。

一方で、一部の項目には課題が残るため、2のとおり対応を行う。

2 「校務DXチェックリスト自己点検結果」における課題及び対応策について

（1）クラウドツールを利用した保護者とのコミュニケーションの浸透

清瀬市では令和5年4月に保護者とのデジタル連絡アプリを導入し、欠席等連絡を「完全にデジタル化している」という回答が77.8%である一方、同アプリで対応できると考えられる「保護者へのお便り・配布物」「学校への提出書類」「調査・アンケート」「保護者との日程調整」などの項目は一部、あるいは学校によっては全くできていない。一方、市で行った保護者への調査では、配布物の電子化に肯定的な意見が多くみられた。

上記の結果を踏まえ、ICT支援員による支援や研修等により活用事例を学校間・先生間で横展開する仕組みを作り、クラウドツールの活用を進める。

（2）校務支援システムを活用したペーパーレス化等の推進

現在の校務支援システムでは、全校・校内など組織ごとに共有できるファイルサーバ、グループウェア内の情報共有ボード、メッセージなどの機能を備えており、「職員会議の資料のペーパーレス化」「会議での検討事項の事前共有」「教職員間の情報共有や連絡」「学校施設の利用予約」などは比較的容易に取り組むことができると考えられる。そのため、（1）と同様、横展開の仕組みを作ってペーパーレス化等を推進する。

（3）その他

次期ネットワーク整備を検討する際、教職員の異動する際の負担軽減などの観点から都道府県レベルでの校務支援システムの共通仕様化や、学習系ネットワークと校務系ネットワークとのデータのやり取りが課題になるため、国や他の自治体の動向を捉えながらクラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進に取り組む。また、押印等の不合理な手入力作業についても、校務の効率化、ペーパーレス化として考慮しながら、FAX・押印の原則廃止に取り組む。